Mother Lake Goals

「世界湖沼デー」の制定

➢ 国連の記念日（国際デー）として「世界湖沼デー」の制定に向けた取組を推進し、世界の水議論における湖沼問題の主流化およびＳＤＧｓの達成に寄与する。

【提案・要望先】外務省、国土交通省、環境省

１．提案・要望内容

「世界湖沼デー」の制定に向けた取組の推進

〇2024 年の国連総会における「世界湖沼デー」の提案と決議の実現に向けた主体的な取組の推進

２．提案・要望の理由

〇 地球上の全ての経済活動や社会活動は、質の高い淡水とその供給に依存しており、安定した水を供給できる湖沼の果たす役割は大きい。

〇 一方で、気候変動等の影響から世界各地における水問題が深刻化。

〇 本県では、これまでから湖沼問題を世界の水議論の主要課題として位置付けるため、世界湖沼会議等の国際会議に積極的に参加し、湖沼の重要性を世界に発信するなど、国内外における湖沼管理の推進において主導的な役割を担ってきたところ。

〇 2023 年３月には国連において、世界的に深刻化している水問題を解決するため、46 年ぶりに「国連水会議 2023」が開催され、この会議において、気候変動による水質や生態系の悪化に対応するため、全ての国や関係者が連携して対応すべきとし、そのために「世界湖沼デー」などシンボリックな日を制定し、湖沼の世界的な関心を惹きつける必要性が示されたところ。

〇 持続可能な湖沼流域管理に向けて、世界の人々の意識を啓発し、行動に繋げていく観点から、「世界湖沼デー」の制定は大変有意義であり、その実現のために、国内外で機運を醸成し、様々な国や地域と連携・協力していく必要があると思料。

〇 国においては、2024 年秋（予定）に開催される国連総会において、「世界湖沼デー」の制定を提案するとともに、その決議の実現に向けて、関係省庁が国連機関や関係国などと国際的な連携・協働を図られるよう要望する。

図．琵琶湖保全再生法（平成 27 年公布）において国民的資産と位置付けられた琵琶湖

（本県等の取組状況と課題）

(1) これまでの取組状況

1980 年 7 月　「琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」施行（7 月 1 日）
1981 年 7 月　「びわ湖の日(7 月 1 日)」を制定(※1)
1984 年 8 月　第 1 回世界湖沼会議(琵琶湖・大津)開催(※2)
1986 年 2 月　国際湖沼委員会(ILEC)設立(草津市)
1993 年 6 月　琵琶湖がラムサール条約湿地に登録
1995 年 4 月　UNEP 国際環境技術センター開設(草津市)
2001 年 11 月　第 9 回世界湖沼会議(琵琶湖・大津)開催
2003 年 3 月　第 3 回世界水ﾌｫｰﾗﾑ(琵琶湖淀川流域)開催
2014 年 7 月　「水循環基本法」施行（7 月 1 日）
2015 年 9 月　「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」施行

図. 滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例の施行日(1980 年 7 月 1 日)

（※1）県民及び事業者の間に広く環境の保全についての理解と認識を深めるとともに、環境保全に関する活動への参加意欲を高めるための日（1996 年 3 月に滋賀県環境基本条例に位置付け）。
（※2）以後、現在に至るまで全ての世界湖沼会議に参加。

(2) 「世界湖沼デー」の制定に向けた国際会議の動向

2022 年 3 月　国連環境会議（UNEA5.2）
2023 年 3 月　国連水会議 2023（UN 2023 Water Conference）
6 月　水と災害に関するﾊｲﾚﾍﾞﾙ・ﾊﾟﾈﾙ（HELP）（ｽﾍﾟｲﾝ・ﾏﾄﾞﾘｰﾄﾞ）
11 月　第 19 回世界湖沼会議（ハンガリー・バラトンフュレド）
2024 年 5 月　第 10 回世界水フォーラム（インドネシア・バリ）
秋頃　国連総会（アメリカ合衆国・ニューヨーク）※予定

(3)「世界湖沼デー」の制定による効果

○ 「湖沼」を世界の水を巡る議論の主要課題へ位置付けること（湖沼問題の主流化）に向け、**世界の湖沼関係者間の意識の高揚や更なる連携に寄与**。

○ 「湖沼」とＳＤＧｓの関係が強化され、**湖沼保全を通じた世界各地における SDGs の達成に貢献**。

図. '84 世界湖沼環境会議（1984 年）
（第 1 回世界湖沼会議・滋賀県大津市）

○ 400 万年の歴史を有する世界有数の古代湖であり、日本最大の湖である琵琶湖を預かる滋賀県として、**琵琶湖における環境保全活動の更なる機運の醸成および国際連携・協力の推進が一層加速**。

担当：琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課水政策係　TEL　077－528－3460